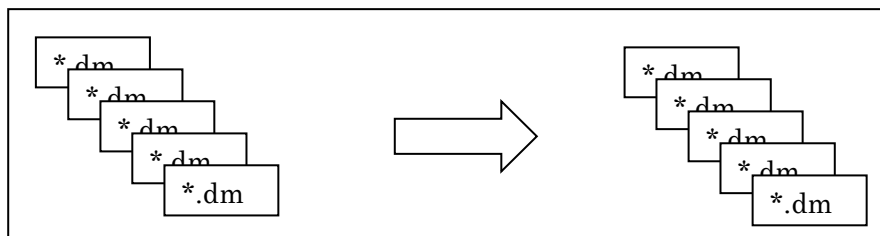
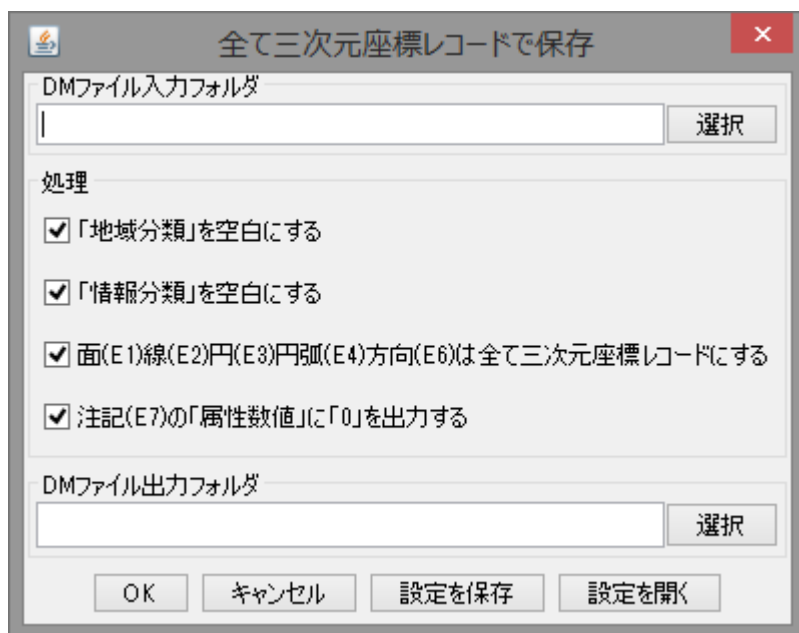


## 1. 全て三次元レコードで保存

メニュー[DM から DM]に新メニュー[全て三次元レコードで保存]を追加しました。

作業規定の準則の DM(拡張 DM)ファイルから、作業規定とは異なる仕様の DM ファイルを作成します。



### DM ファイル入力フォルダ

変換元の DM データファイルのフォルダを指定します。このフォルダの「.dm」を参照します。

### 「地域分類」を空白にする

グループヘッダレコードと要素レコードの「地域分類」を全て半角スペースにします。

### 「情報分類」を空白にする

グループヘッダレコードと要素レコードの「情報分類」を全て半角スペースにします。

### 面(E1)線(E2)円(E3)円弧(E4)方向(E6)は全て三次元レコードにする

面(E1)、線(E2)、円(E3)、円弧(E4)、方向(E6)について、座標は三次元レコードで出力します。

作業規定の準則では、等高線は属性数値に標高値を記録し、二次元座標レコードで記録するようになっていますが、ここでは三次元レコードで出力します。

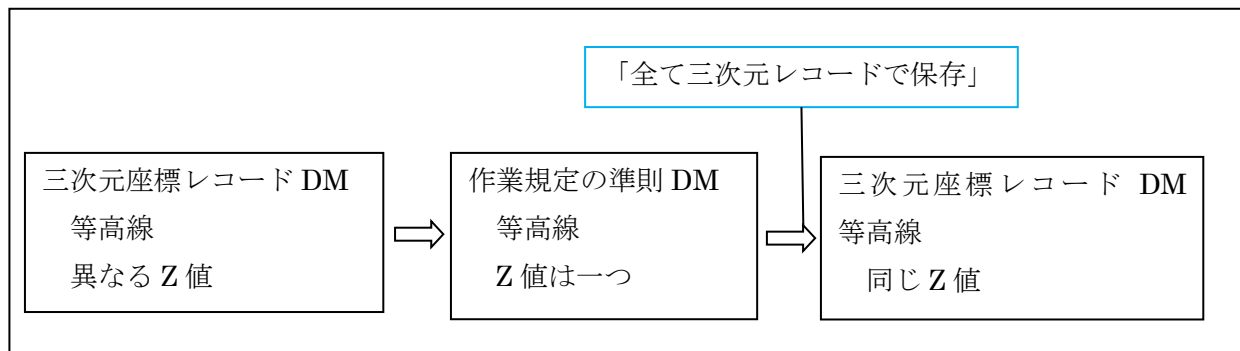
また、元々二次元の要素は、標高値=0 の三次元座標レコードで出力します。

### 注記(E7)の属性数値に「0」を出力する

出力する DM の注記(E7)について、属性数値は「0」で出力します。

この処理で作成するような内容の DM を、以下の説明のため「三次元座標レコード DM」とします。

元の三次元座標レコード DM について、等高線の Z 値が同じ値ではない場合、作業規定の準則の DM になった段階で、同じ Z 値になります。これを、この形式の DM に変換した場合、この異なる Z 値の情報はなくなります。

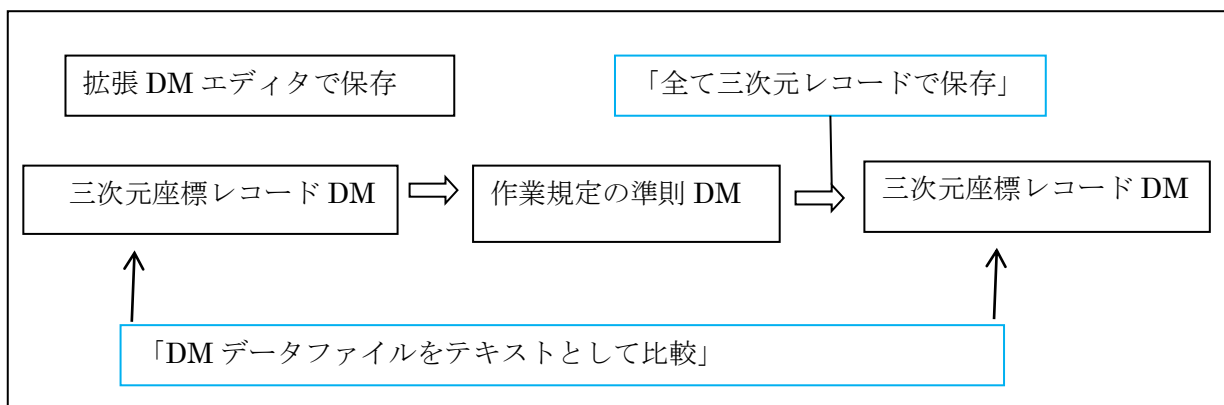


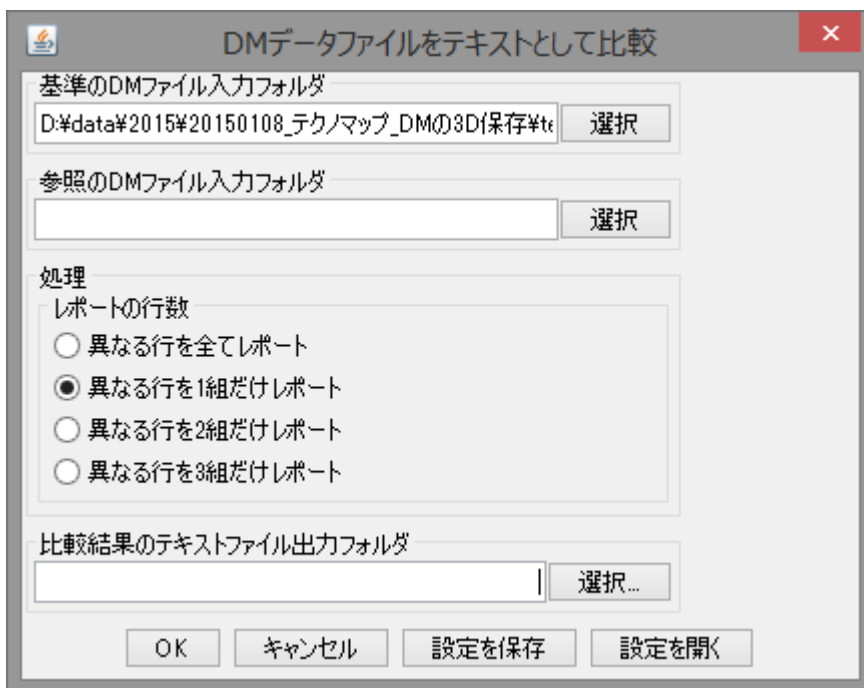
## 2. DM データふぁりうをテキストとして比較

新メニュー[DM から変換]-[DM データファイルをテキストとして比較]を追加しました。

同じ名前の DM ファイルをテキストファイルとして各行を順に比較し、文字列が異なる行をレポートします。

メニュー[DM から DM]-[全て三次元座標レコードで保存]で作成した「三次元座標レコード DM」ファイルの内容を確認するため作成した機能です。





#### 基準の DM ファイル入力フォルダ

基準となる DM データファイルのフォルダを指定します。

#### 参照の DM ファイル入力フォルダ

参照する DM データファイルのフォルダを指定します。

#### レポートの行数

異なる行について、レポートする行数を指定します。デフォルトは 1 組にしています。異なる行数が多いと、処理時間が大きくなります。

#### 比較結果のテキストファイル出力フォルダ

異なる行の内容をテキストファイルに出力します。各 DM データファイル別にテキストファイルを作成します。ファイル名は

DM データファイル名(拡張子なし)+「.txt」

です。

保存するテキストファイルには、DM データファイルの異なる行について、4 行一組で記録します。

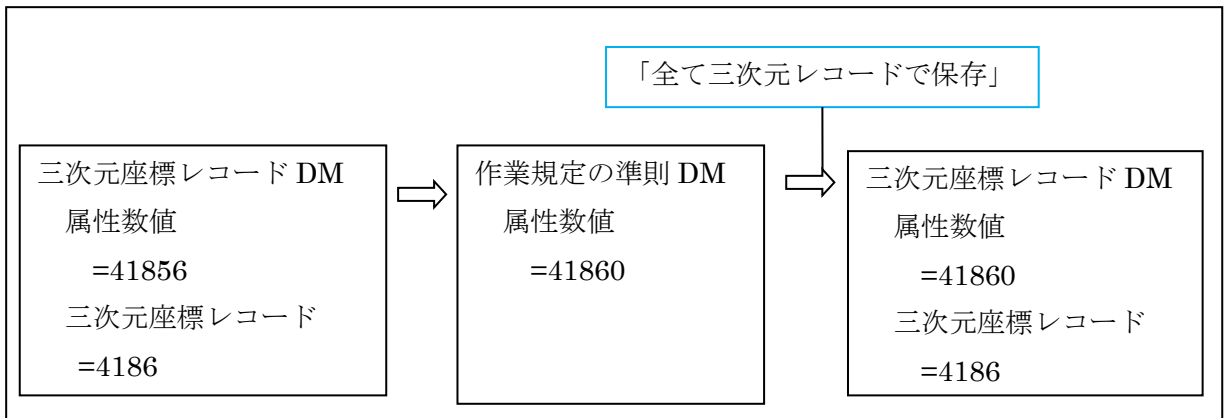
1	異なる文字列	行=63773↓																		
2	-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----↓																			
3	12345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234																			
4	149318 19625 1000 150000 20254 0																			
5	149318 19625 1000 150000 20254 1000																			
6	異なる文字列	行=63775↓																		
7	-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----↓																			
8	12345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234																			
9	149135 43676 2000 149270 43696 2000 149726 43795 2000 150000 43942 0↓																			
0	149135 43676 2000 149270 43696 2000 149726 43795 2000 150000 43942 2000↓																			

最初の行は元の DM ファイルでの行番号です。2 行目と 3 行目は文字位置を確認するための目盛です。4 行は基準の DM の行、5 行目は参照の DM の行です。

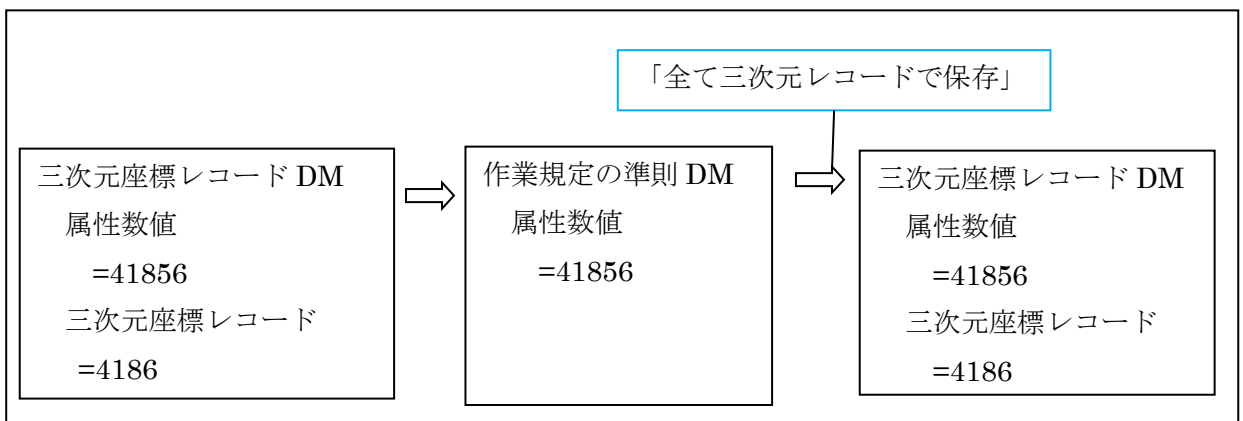
上図は等高線の Z 値について、基準の DM に「0」が混ざり、参照の DM では同じ Z 値になっているケースです。

異なる文字列 行=87401↓													
1	2	3	4	5	6	7	8	↓					
123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234	↓												
E67312	354	2	03360	00	2	1	0	0	41856	0	140600000000	1	↓
E67312	354	2	03360	00	2	1	0	0	41860	0	140600000000	1	↓
異なる文字列 行=87403↓													
1	2	3	4	5	6	7	8	↓					
123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234	↓												
E67312	355	2	03360	00	2	1	0	0	42245	0	140600000000	1	↓
E67312	355	2	03360	00	2	1	0	0	42250	0	140600000000	1	↓
異なる文字列 行=87405↓													
1	2	3	4	5	6	7	8	↓					
123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234	↓												
E67312	356	2	03360	00	2	1	0	0	46373	0	140600000000	1	↓
E67312	356	2	03360	00	2	1	0	0	46370	0	140600000000	1	↓

上記のケースでは、基準の DM の方向(E6)について、Z 値が三次元レコードで記録されていますが、属性数値が、その Z 値と異なり、作業規定の準則の DM になった段階で、三次元レコードの Z 値が属性数値に記録され、再度、三次元レコードに記録される段階で、属性数値の Z 値が記録されたケースです。



拡張 DM エディタのバージョン 8.0.11 α (2015/01/12)から、DM をリードする際に、精度が高い属性数値の方を優先するように修正しました。



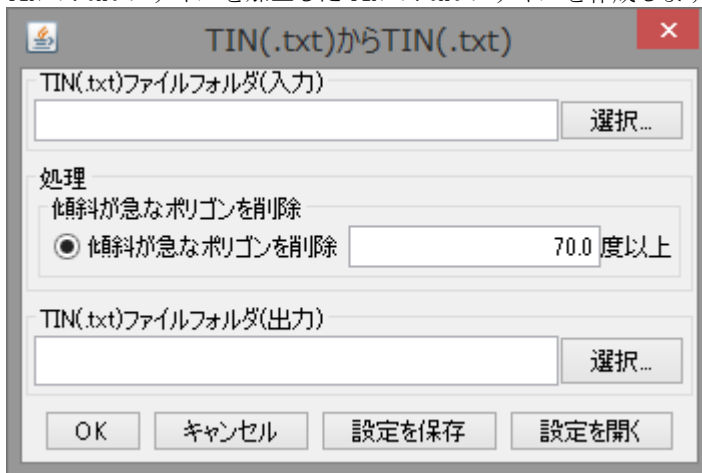
両方の DM データファイルが全く同じ場合、出力するテキストファイルのサイズは0です。

名前	更新日時	種類	サイズ
memo	2015/01/11 12:03	ファイル フォルダー	
02.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	0 KB
03.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	6 KB
04.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	1 KB
01.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	0 KB
02.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	0 KB
03.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	0 KB
04.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	0 KB
03.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	1 KB
04.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	2 KB
01.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	1 KB
02.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	0 KB
03.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	0 KB
04.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	2 KB
01.txt	2015/01/11 16:14	テキスト文書	0 KB

### 3. TIN(.txt)から TIN(.txt)

新メニュー[TIN]-[TIN(.txt)から TIN(.txt)]を追加しました。

TIN の .txt ファイルを加工した TIN の .txt ファイルを作成します。

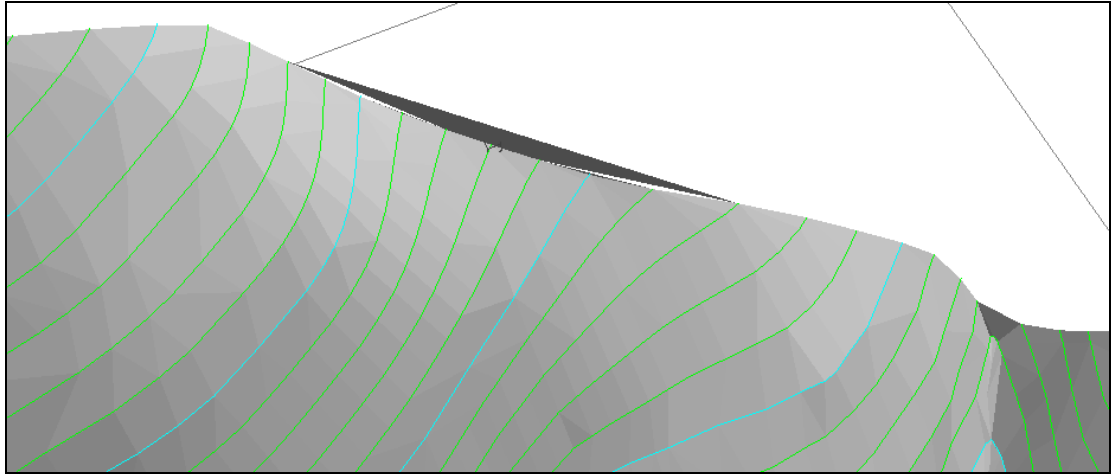


#### TIN(.txt)ファイルフォルダ(入力)

TIN の .txt ファイルのフォルダを指定します。このフォルダの .txt ファイルを参照します。

#### 傾斜が急なポリゴンを削除

TIN の三角ポリゴンのうち、指定された傾斜角以上の傾斜が急な三角ポリゴンを削除します。下図のようなケースを想定しています。



また、三角ポリゴンの3点が1点に縮退したり、2点が同一座標の場合も削除します。

```

TIN(.txt)からTIN(.txt)へ開始
D:\data\2014\20141206\sample_tin\20141206_TIN(.txt)からTIN(.txt)へTinNF2344.txt 縮退したポリゴン数=0 傾斜角70.0度以上のポリゴン数=17 保存したポリゴン数=8141
保存 D:\data\2014\20141206\sample_tin\20141206_TIN(.txt)からTIN(.txt)へTinNF2344.txt
D:\data\2014\20141206\sample_tin\20141206_TIN(.txt)からTIN(.txt)へTinNF2344.txt 縮退したポリゴン数=0 傾斜角70.0度以上のポリゴン数=0 保存したポリゴン数=89
保存 D:\data\2014\20141206\sample_tin\20141206_TIN(.txt)からTIN(.txt)へTinNF2344.txt
D:\data\2014\20141206\sample_tin\20141206_TIN(.txt)からTIN(.txt)へTinNF2344.txt 縮退したポリゴン数=38 傾斜角70.0度以上のポリゴン数=97 保存したポリゴン数=24847
保存 D:\data\2014\20141206\sample_tin\20141206_TIN(.txt)からTIN(.txt)へTinNF2344.txt
D:\data\2014\20141206\sample_tin\20141206_TIN(.txt)からTIN(.txt)へTinNF2344.txt 縮退したポリゴン数=0 傾斜角70.0度以上のポリゴン数=6 保存したポリゴン数=955
保存 D:\data\2014\20141206\sample_tin\20141206_TIN(.txt)からTIN(.txt)へTinNF2344.txt
D:\data\2014\20141206\sample_tin\20141206_TIN(.txt)からTIN(.txt)へTinNF2344.txt 縮退したポリゴン数=193 傾斜角70.0度以上のポリゴン数=124 保存したポリゴン数=58293
保存 D:\data\2014\20141206\sample_tin\20141206_TIN(.txt)からTIN(.txt)へTinNF2344.txt
処理時間 904ミリ秒
TIN(.txt)からTIN(.txt)へ終了

```

### TIN(.txt)ファイルフォルダ(出力)

TIN の.txt ファイルを作成するフォルダを指定します。入力とは別のフォルダにしてください。